（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2690600131		
法人名	医療法人社団　長啓会		
事業所名	グループホーム京都左京の家（一号館）		
所在地	〒601-1123京都市左京区静市市原町646-2		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600131-00&PrefCd=26&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成29年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症の方の苦しみを一緒に共有し寄り添って共に生活していく事を心掛けて、私達は日々ご利用者様の良きパートナーになれる事を念頭に置きながら介護いたしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは「共に生きよう」という理念を掲げ、地域交流に積極的に取り組むと共に利用者の思いに寄り添った支援を心がけ理念の実践に繋げています。地域の運動会や祭り、防災避難訓練へ参加し炊出しの担当を担ったり、小学校において認知症講座を開催しホームのことを知ってもらうなど、地域におけるグループホームの役割を果たそうと取り組んでいます。ホームが開催する秋祭りには、ボランティアを含む地域住民の参加も多数あり、活動が少しずつ根付いてきています。また利用者がこれまで大切にしてきたものや暮らしが継続できるよう、職員が利用者や家族の目線に立ち支援について話し合い検討し、利用者の個性を大切にし、できる事を最大限引き出しその人らしい生活が送れるように支援に取り組んでいるホームです。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きよう」を心掛けてご利用者様と一緒の一つの家族として介護に努める。	職員で話し合い利用者が地域で一つの家で共に生活をするとの思いを込めて作られた「共に生きよう」というホームの理念を掲げています。随時に行われるフロア会議や月に1回の職員会議等で理念について振り返りの場を設け、利用者の思いに寄り添った支援をこころがけ理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営委員会等からの情報をもとに地域に根ざした施設として日常的に交流を心掛けている。	地域の祭りや運動会に参加する他、地域包括支援センターと協力しながら小学校での認知症講座を行ったり地域の災害訓練に参加し炊出しの担当を担う等積極的に交流しています。ボランティアの協力を得てホームで秋祭りを開催し、地域住民の参加も多く得られています。近隣の方から野菜の作り方を教わって玄関先で栽培したり、桃や柿の差入れを頂くなど日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括・地元社協などが主催しているSOSネットワークなどには積極に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果報告しご意見をお聞きし職員間のミーティング等で話し合いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族、自治会長、町会長、民生委員、社会福祉協議会長、地域包括支援センター職員など他多数の参加を得て、2カ月に1回開催しています。ホームからは利用者の様子や現状の報告、今期は特に台風被害の報告から地域の消防団との関わりが深まるなど、参加者から地域の情報や様々なアドバイスをもらい有意義な意見交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来るだけ連絡を取り協力関係をと考えていますが、入所の時だけの関係になりがちなので今後の課題かと思います。	介護保険はじめ後見人など相談や困りごと、支援の中で分からない事があれば役所の担当課に赴き相談し、その都度解決するようにしています。また行政が主催する研修などの案内があれば、可能な限り希望者は参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては本部の定期研修などで学習していますし、施設での特別な場合を除いては拘束は絶対にしないと職員全員が認識し介護に努めています。	法人の年間研修内容を基にテーマを設定し、職員会議の時に虐待や身体拘束について研修を行っています。ホーム内で虐待防止委員会を立ち上げ、原因の解明や防止策を考え、職員間で共有しています。言葉による拘束にも気を配り、外出希望の利用者には寄り添い拘束感の無いように努めています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今までにも虐待についての研修を行ってきましたが、虐待に関しては表に出ない事例が聞かれます。その為当施設では虐待らしい行為を見たり聞いたりしていないか定期的に無記名でチェックリストを作りちょうさしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会は少ないと思いますが、現在その様な制度を活用して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情など随時受付していることを周知して頂いています。	2カ月に1回各担当者が利用者の様子を伝える手紙を送り、家族の意見は面会時などコミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境づくりに努めています。おやつや衣替えについての意見が得られ全職員に伝え、利用者や家族の目線で考え支援に取り組むようにしています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアーミーティングで話し合い、毎月の職員会議で意見の発表・提案等を全体で話し合う機会を作り反映している。	職員会議や法人が行う年2回の全職員対象の個人面談、個々の様子を見て随時面談を行うなど多くの意見を聞く機会を設けています。朝食時間の見直しの提案があり、業務分担の変更を行い担当を決めることによって業務改善に繋げるなど、意見をサービスの向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のAA課程の勉強会以外にも研修を受ける機会には協力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一同が情報を共有して一にも早く施設に・職員に馴染んでいただける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること不安なこと、要望には充分に時間をかけ、傾聴し私達が支援できる事をお話してお互いの関係があるスムーズになるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーを間にご利用できる支援を含めて対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の職員の心得・理想として共に生きる家族の関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同上		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り支援しています。	孫や知人、教え子などの訪問があり、来訪時には共用リビングや各居室でゆっくりと過ごしてもらえるように配慮しています。馴染みの喫茶店や美容室、植物園、ドライブなどに出かけたり、定期的に家族との外食の場を設ける等個々に応じた支援をしています。年賀状のやり取りなども支援し、これまでの関係が途切れないように努めています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的にご利用者様に目を向けて施設に馴染めていないか、孤立していないかご利用者様のご様子を把握し、職員等で話し合い支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後同敷地内の小規模多機能施設の移られた方についてはフォロー出来ていますが、残念ながらそれ以外の方については、亡くなられた方や長期入院等などで支援出来ていません。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意思の把握に努めていますし、困難な場合は本人を交えて、ケアマネジャー・担当者・管理者で話し合い検討しています。	入居にあたって管理者は自宅を訪問したり、入院先の病院などでサマリーをもとにこれまでの暮らしや生活習慣、本人や家族の希望、医師の意見などを確認しフェイスシートを作成し職員間で情報共有しています。思いや意向の把握が困難な場合は、日々の様子や職員の目線から本人の立場に立って職員同士で話し合い検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時そういったことを総合的に把握しているいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しています。	本人や家族の意向を確認しアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成しています。介護計画と連動させた日々の介護記録を残し、3カ月に1回モニタリングを行い、大きな変化がなければ1年ごとに見直しています。見直しの際には再アセスメントを実施し本人や家族、看護師などの意見を聞き、サービス担当者会議を開き介護計画に反映させていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し実践し介護計画の見直しに努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの支援は決して惜しまない様に柔軟な対応に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人々の知恵や人脈をお借りして様々な施設の取り組みに協力して頂きながら、安心して生活を楽しんでいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援しています。	入居前からのかかりつけ医を継続することも可能であることを伝えています。協力医とは24時間連携が取れる体制になっており、週2回の往診があります。日々の健康管理については週3回看護師職員が対応し、希望者や必要な利用者は精神科の受診や週1回の歯科医往診、歯科衛生士の口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点から当施設で行える支援を説明し、そういった事態が起こった時はご家族様のご希望に沿うよう話し合いをもって支援に取り組んでいます。	入居時にあたって重度化や終末期の支援についてホームでの可能な対応について説明し、本人や家族の意向を確認しています。職員に対しては、職員会議で看取りについて研修を行ったり、協力医から終末期の支援についてアドバイスをもらっています。また重度化した時点で医師から家族に伝えてもらうと共に事業所との三者での話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成したり、緊急時の模擬研修を行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署の方を交えて話し合いをし、地震・火災・夜間時・水害等4災害を想定した訓練を行い指導して頂いています。	運営推進会議で呼びかけ地元の消防団などの参加を得て、ホーム内で年3回避難訓練を実施しています。昼夜を想定した消火訓練を中心に水害や地震にも対応した避難訓練を行い、近隣の方にも声掛けを行っています。備蓄品としては水やカンパンなどの非常食を備えています。また年2回地域の防災訓練にも参加し炊出しの担当になっています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待の研修にも出てくる事案ですが、虐待防止に不可欠な事としてご利用者様の人格を尊重する事から介護が始まっている事を職員一同念頭に置くことを徹底している。	入職時研修や職員会議の中で人格の尊重等について考える場を設けています。言葉遣いや声の大きさ、羞恥心にも配慮した年長者への対応を基本に利用者が分かりやすく安心できるコミュニケーションができるように努めています。不適切な対応があった場合は職員同士で注意し合ったり管理者が利用者のいない場で注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々ご自分の意思を表現できる方が少ない中で職員が思いを察知できるよう指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のご希望に沿うよう声掛けをし声を聞き希望に沿った支援を行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っています。	基本的な食材は業者から届けられ、利用者は可能な範囲で一緒に準備をします。週に1～2回は希望を聞きながら献立を決め作り、朝食やおやつについては利用者と職員が近隣のスーパーなどに一緒に買い物へ行っています。たこ焼きなどのイベント食や希望に応じて寿司やラーメン、めし屋など個別の外食レクリエーションも適宜取入れ、食事が楽しいものとなるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給に関しては看護師の指導の下充分に注意し支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様が出来るだけご自分で尿意を感じておられる間は、自力排尿を支援し、尿意をお感じにならなくても声掛けによりトイレでの排泄にの支援を徹底している。	トイレでの排泄を基本にし利用者毎の排泄記録から個々のパターンを把握し、声掛けや誘導を行い失敗の無いよう配慮しています。入居時おむつを使用していた方が徐々に紙パンツから布パンツへの変更ができた結果、居室に閉じこもりがちだった利用者が自信を取り戻し行動が活発になった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行っており、看護師の指導の下個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	中々お一人ひとりのご希望となると難しいのですが、無理強いはせずお伺いをしてから入浴して頂いているのが現状です。	基本的には週3回、午後から夕方にかけて入浴してもらっています。湯を一人ずつ入れ替え、好みの石けんやシャンプーを持参してもらったり、ゆず湯などの季節湯なども取り入れ気持ちよく入ってもらえるように支援しています。拒否される方については職員や声掛けのタイミングを変える等して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはドクターなり看護師又は、薬剤師からの説明を担当者が聞き、薬ノートにて職員に連絡周知を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や行きたいところへのドライブや食事に行ったりと支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ支援しています。	天気の良い日には出来るだけ外に出かけるよう心がけています。疎水沿いの散歩や喫茶店、コンビニ、スーパーへの買い物は日常的に出かけています。花見や紅葉見学などのドライブや馴染みの散髪屋やCDショップ、図書館や100円ショップなど本人の希望する場所への個別外出についても積極的に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	共用空間には季節ごとの飾り付けをして季節を感じられるようにしています。飾り付けについては、元友禅の絵描の利用者が描いた下絵に皆で色を塗ったりしたものやちぎり絵などを飾り落ち着いた空間作りをしています。光の強弱でカーテンの開閉や湿温度や臭気にも気を付けて、快適な空間となるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫したり、機会を作って差し上げたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご利用者様のご希望を大切に工夫しています。	入居時に今まで使っていた馴染みの物を持参してもらう様に説明しています。使い慣れたタンスや鏡台、大切にしている仏壇や写真、人形、趣味のギター、パソコン、編み物道具などを持参し、今までと同じように暮らせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険物のチェックは毎日行い安全に過ごされるか確認を怠らず、ご利用者様がお健やかな毎日が過ごされるように工夫している。		